太田・館林・邑楽地域

のびのび子育て、店舗開業の夢も実現

横浜から移住し、本格的な自家焙煎コーヒー店を開業した佐藤さん夫婦。
人が温かく、ゆとりを持って子育てできる環境に満足している。

Profile

佐藤雄一郎さん・早苗さん

神奈川県横浜市 ⇨ 館林市（2016 年移住）

東京・神田生まれの雄一郎さん、横浜市生まれの早苗さん夫婦と、龍くん（小3）・咲月ちゃん（4歳）の4人家族。移住して自宅兼店舗で自家焙煎コーヒー店を開業したのが7年前。移住後に咲月ちゃんも生まれ、子育てと仕事を両立しながら、人々に愛される店のスタイルを守っている。

1

2

3

4

自宅を兼ねた店舗を開く夢を追って

横浜で喫茶店を営んでいた佐藤さん夫婦には、「いつか自宅を兼ねた一軒家で自分たちの店を開きたい」という夢があった。長男の龍くんもまだ小さく、仕事と育児の両立が難しかったからだ。また、都会では、自宅と店舗の両方にかかる家賃や税金などの経費が、地方とは比較にならないくらい高かったという。

転機は7年前に訪れた。長く空き家になっていた雄一郎さんの親戚の家を相続できることになったのだ。二人ともそれまで群馬を訪れたことはなく、見知らぬ土地への移住となったが、夢を叶えたいという思いが勝った。また、当時2歳だった龍くんを自然豊かな場所で育てたいという気持ちもあったという。

「周りの人々が温かく迎えてくれ、都会では考えられない親切さに感動しました」と早苗さん。金物屋だった居抜き店舗は物であふれ、片付けは想像以上に大変だった。「金物屋がまだ営業していた頃よりお付き合いのある方が快く手伝ってくださいました。今も親戚のようなお付き合いをさせていただいています」という。改装に当たっては、必要最小限の工事だけを工務店に依頼し、自分たちで壁を塗ったり、いただき物やリサイクル品を利用したりして、3か月後には自家焙煎珈琲「copicopi（コピコピ）」をオープン。手づくり感満載の店内は、二人の温かい人柄をよく表すとともに、レイアウトやオブジェにもこだわりを感じる。店舗の奥は住居スペースで、お店に立ちながら子どもの世話もできるような造りにした。

自家焙煎コーヒー店「copicopi（コピコピ）」の前に並ぶ佐藤さんファミリー。雄一郎さんのビンテージバイクにまたがるのは長男の龍くん。

「ここを選んでよかった」と笑顔で話してくれたご夫婦。

のびのび育てたいという願いも叶った

「子どもは地方でのびのび育てたいというのが、僕たちの願いだった」と話す雄一郎さん。都会育ちの二人にとって、館林のゆとりある環境は驚きの連続だったようだ。早苗さんは「一番びっくりしたのは保育園の広さです。館林の保育園は都会の保育園が10園くらい入ってしまいそうなほどでした。横浜では、役所に何度も相談してやっと保育園に入ることができました」という。保育園だけでなく、どこに行っても広々していると感じた。近所のスーパーマーケットの駐車場も「アメリカ映画で見たシーンのよう」と驚いたとか。

龍くんも、移住後に生まれた咲月ちゃんも、希望の保育園に入園することができ、時間外にはファミリー・サポート・センターなども利用しながら、仕事と子育てを両立させてきた。

最近は子育ても落ち着いてきて、早苗さんは子ども会の役員を引き受けた。自治会の高齢者と一緒に活動することから、町内の人との関わりも密になったという。廃品回収やゲートボールの行事、群馬県の郷土かるた「上毛かるた」の練習会などにも参加。子どもたちの顔を町内の人に知ってもらったことで、防犯の面でもよかったと思っている。

上州人の“義理人情”に感動

オープンから7年。こだわりの豆選びと確かな焙煎技術が評判を呼び、常連客もずいぶん増えた。「お客様と絆を結ぶには館林でよかった」と雄一郎さん。人間味あふれる付き合いができ、応援してもらっていることを肌で感じるとか。「私たちもできる限りいいサービスをしようと思う」という早苗さんは、上州人気質を表す上毛かるたの『雷とからっ風義理人情』を実感する日々だ。

お客様から採れたての野菜をいただいたり、料理の作り方を教わったり。温泉好きだと言うと、あちこちの温泉の情報を教えてくれる人もいる。都会とは異なる人との距離感に慣れるまで時間がかかったが、今ではそれを楽しむと同時に心からありがたいことだと感じている。

コロナ禍では開店時間を短縮したが、常連客は変わらず来店してくれた。「みなさん、ほっとする癒しの時間を求めてきてくださいます」と早苗さん。「コピコピのコーヒーを飲まないと、コーヒー難民になっちゃう」という大ファンもいるほど愛される店になった。閉店後のテイクアウトや焙煎豆の販売窓口も新たに設けた。家で本格コーヒーを楽しむ人が増え、豆の需要は逆に増えたとか。

「コピコピという店も生き物。コーヒーを飲むだけなら他にも店はあるけれど、コミュニケーションや癒しの時間を提供する、この店のスタイルを守っていきたい」という雄一郎さんの隣で、早苗さんが笑顔でうなずく。優しくて、温かい二人の雰囲気が、この店のファンを増やしている。

1. 早苗さんが丁寧にハンドドリップを始めると、芳しい香りが店舗内に一気に広がる。
2. 産地ごとに並ぶ焙煎前の生豆。品質の良い豆を選ぶ目利きと焙煎技術が味の決め手。
3. 「おいしく入りました！」と早苗さんが淹れてくれたコーヒーは、味わう前からおいしさが伝わる。
4. 癒しの空間を提供したいという店内には、お客様に自由に弾いてもらうためのギターや、珍しい手挽きコーヒーミルなども置かれている。

COLUMN ぐんまへ移住して、

子育てと仕事を両立したい！

遠くに出かけなくても身近に広い公園がたくさんある太田・館林・邑楽地域。自然の中でのびのび子育てできる環境が整っており、群馬県の子育て満足度ランキングは関東1位だ。

群馬県の0～5歳人口10万人あたりの保育所の数は東京より多く※1、都会では深刻な待機児童問題も発生していない※2。

※1　総務省・統計でみる都道府県のすがた（R2）
※2　厚生労働省・保育所等関連状況とりまとめ（R4）

保育所数 ※1
582 群馬23位
534 東京28位

待機児童数 ※2
1人 群馬15位
300人 東京45位

近くに広い公園がたくさんあるのもうれしい！